

## 意見を交わしてみれば

柳下明莉（文教育学部・人間社会科学科グローバル文化学環・4年）

### 1. 釜山外大の学生と話そうと思ったきっかけ

釜山外大は、韓国実習のなかでの最後の交流校だった。しかし、双方からの発表が多かったため、それぞれが自由に意見を交わす場はあまり多くなかった。せっかく最後だから、またわざわざ大学の授業というかたちで来たのだから、もっと普段はつい話すのを避けてしまいがちな話題も話してみたかったというわだかまりが、1日が終わった後に私自身の中に残っていた。けれど、自分で何かのアクションを起こす気持ちはなかった。しかし、同じ部屋の前田さんが同じ感想を持っていたことで、森山先生と話し、自分たちで自由時間に話してみればよいのではということになった。そこで、27日に自由時間を使ってもっと議論してみないかと人を募り希望者がカフェで集まって様々な話題について話をした。

### 2. 学生同士で話した内容

韓国のこと、日本のこと、その間にあること、私たちを取り巻くことととても話題はとても幅広かった。海や島の名前や、どのような主張が行われているのかという領土問題、日本による植民地時代をどのように学んできたかということ、日韓関係、北朝鮮に関する事などを話した。植民地になっていたときのことを、韓国では、歴史の授業以外にも、文学などを通して細かい日本政府の政策なども学ぶそうだ。例えば、植民地時代のはじめにはハングルを普及させるなど近代化政策を行っていたが、のちに日本名への改名など、民族の色を消すものになっていったことなど日本ではそこまで細かく教えられない部分も釜山外大の学生がささっと説明してくれた。そして、興味深かったことが、複数の学生が祖父母から、植民地時代の話聞くことは多くはなかったが、大学等で日本語を学ぶようになってから、いろいろと話をされるが増えたと話していた点だ。祖父母が、当時の先生の服装など覚えていて教えてくれたり、当時の日本語の教科書の文章を暗唱できたりしたそうだ。また、祖父母のなかでも、日本で生まれたときは日本名の名前しかもっておらず、韓国に戻ってきてから韓国の名前を初めて持ったそうだ。それは、日本においては、日本人ではないとわかると差別されるから、日本式の名前を付けて使っていたらしい。韓国では今も、日本の単語が使われることがあるが、そのように使われる日本の単語は、やくざなどが使うような、強いことばという印象があるそうだ。それは、映画「友へ チング 친구」を見るとよくわかるという。

そして、韓国と日本の関係を考えると、韓国側はいまも被害者だという意識が強いけれど、日本の方は、過去のことは水に流そうという態度のように、ただの国同士の関係とみているように見える。例えば、軍艦島を世界遺産にする動きも、昔の歴史を無視している点が嫌である。被害国・加害国という立場があった以上、やはり、きちんとした謝罪が必要なのではないかという考えは強い。そして、日本語を専攻している学生でも、小学校のときから習ってきた日本のイメージは、「敵」であり、日本に対して大嫌いであったり、拒否感もあったそうだ。けれど、日本について音楽などの文化的なものから興味を持ち、日本へのイメージが変わったという。それでも、中高生のときなどは、日本語を勉強しているという、「親日」と言われることが多くあったそうだ。政治の関係、経済の関係となると利益が中心であって、考えも流されてしまいがちなように思う。その点、日韓関係の未来についての発表にあった、音楽イベントのコラボってすてきなイベントだろう。モデル

の Shiho さんと格闘家の秋山さんの娘さん、サランちゃんの家族の存在も、すてきで、ポジティブなイメージにつながりやすい。また、日本において就活をしていた際は、エントリーシートや、面接でも日韓・韓日関係については聞かれたそう。例えば、「現在の日韓関係は、冷え込んでいるが今後はよくできると思うか。」などを実際に言われたという。韓国という国に対してのイメージも、ひとりの韓国の人に実際に会い、その人に対してよいイメージを持てば、結果として国に対してもイメージが良くなるのではないかと。

日本にいと北朝鮮に関して、プラスのニュースを聞くことは、とても少ない。その点、北朝鮮と韓国のことをどう考えているのかに関心があり、質問してみた。それに対しては、国同士が緊張関係を保っていることは、リスクであり、マイナスだと思う。それだからこそ、将来のことを考えると、今の世代が犠牲になってでも、ひとつの国になる方がいいのではという意見があった。けれど、現実には、すでに大きな経済的、政治的な差があり、統一されることは難しいだろうということも話していた。また、脱北者に関しては、高校の同級生にいたり、スピーチや映画を見たりして知っていることが多くあった。韓国では、脱北者向けの学校もあり、教育を行っているという。また、植民地支配や韓国（朝鮮）戦争の影響による離散家族の問題は現在も多いにあるそう。

また、政治に関しては、韓国の若者の投票率は最近上がってきており、政治に関心を持ち積極的に活動する芸能人もいるそう。

### 3. 互いに話したことで感じたこと

個人の行動によって、周囲の人の意識を変えることが、国同士の良い関係の構築につながるということを身をもって話していたことがとても印象的だった実際に、友人の父も、仕事で出会った韓国の人によって韓国という国に対してもイメージが変わったそうで、つい国同士の関係と考えるとスケールが大きくなってしまいが、自分のひとつの声かけや態度でも変化を起こすことができるはずだということを強く感じた時だった。また、植民地支配や韓国（朝鮮）戦争ということが必ずしも教科書に載っている「歴史」としてではなく、それぞれの生きた経験・記憶としてあることも感じた。日本語を学んでいる学生としては、日本による植民地支配や、領土問題に関してわざわざ日本の友人と話すことはためられると聞いた。相手に不快な思いをさせるかもしれない話題は、確かに相手にふりにくい。けれど、今回いろいろな話を聞くことができ、育ってきた環境における似ている面、異なる面を様々知ることができた。また、そのように聞いた話を家に帰り家族と話したり、友人に話したりすることで、より多面的な理解が深まったように思う。このような機会を持てたこと、一緒に議論に参加してくれた友人たちに出会えたことで、このフォーラムに参加できとてもよかったと感じた。